

第8回日本プロオーケストラファンクラブ協議会総会 山形総会議事録

日 時 平成26年11月23日（日）

12:30～15:30

場 所 山形テルサ2階リハーサル室

次 第

- 1 開会宣言
- 2 歓迎のあいさつ
- 3 各団体の紹介
- 4 来賓あいさつ
- 5 活動報告（総括）
- 6 会則改正・人事案件
- 7 JOFC Cafe（仮）テーマ別グループトークとゲネプロ見学
- 8 第9回総会開催地について
- 9 第9回総会開催地主催者のあいさつ
- 10 閉会のことば
- 11 閉会宣言
- 12 集合写真撮影

開会宣言

○司会（山田） 本日は、遠いところからお越しになってくださった方もいらっしゃいまして、本当にありがとうございます。

これより、日本プロオーケストラファンクラブ協議会第8回総会を開会します。（拍手）

本日、司会を担当させていただきますのは、NHK大阪放送局の山田朋生と申します。去年の夏まで山形におりまして、そこで山響を応援させていただいておりました。今は、山響を応援しつつ、大阪で日本センチュリー交響楽団を応援させていただいております。

というわけで、きょうは議長を置かない方針とさせていただきたいのですが、よろしいでしょうか。（拍手）私、山田が議長を兼ねさせていただきたいと思います。

それでは全体の流れ、きょうの流れを簡単に御紹介したいと思います。

きょうは、この議案書を皆さんお持ちでしょうか。もし、ないという方がいらっしゃいましたら……、お持ちですね。議案書を最初にめくっていただきますと、きょうのこちらの資料に総会の次第というのがありますので、簡単にこれを見ながら御紹介させていただきます。

最初の30分間で御挨拶をいただきまして、活動報告、そして人事に関するお話をさせていただきます。その後、1時ごろからJOFC Cafe（仮）ということで、テーマ別グループトークとゲネプロ見学を実施してまいります。10分間の休憩の後、発表などがありまして、3時半の終了を予定しています。それよりもなるべく早目に終われたらいい

なというふうに思っておりますので、皆さんの御協力をお願いしたいと思います。

歓迎のあいさつ

○司会（山田） それでは、まず、会長から御挨拶をいただきたいと思います。

J O F C 会長上田文雄様から、御挨拶よろしく申し上げます。（拍手）

○上田会長 こんにちは。御紹介いただきました、J O F C の会長を務めさせていただいております、札幌くらぶの会長でございます上田文雄といたします。どうかよろしく願いいたします。

こうして第8回になりますJ O F C 総会、全国のファンクラブの皆様方、たくさんこの山形にお集まりをいただきましたことをまずもって心から感謝申し上げたい、このように思います。そしてきょうは山形県庁から、それから公益社団法人の山形交響楽団の理事長様初め、本当にこの山響をしっかりと応援していただいている皆さん方からも、こうして御臨席をいただきまして総会を開くことができることを、本当にうれしく思うところでございます。皆様方の御来に、心から感謝申し上げたいと、このように思います。

さて、1年に1回こうしてJ O F C 日本全国の地方で活躍をしている交響楽団、これを支え、そうしてもっともっと盛んにしていきたい、オーケストラそのものが発展するということと同時に、ファンの皆様方をしっかりと醸成をしていくといたしますか、広げていく。そのことによって音楽文化というものが盛んになり、それぞれのまちがすてきなまちになるように、みんなが努力をしようということで、そろって言える、このJ O F C です。それぞれの皆様方の知恵を出し合って情報交換しながら、こんな活動もおもしろいな、うちでもやってみようか、そんな思いが伝わり、そして実践につながるということが、私たち活動を、ひいては大きく言えば日本の音楽文化というものを本当に支え、そして変えていくことができるのではないかなと、こんなふうに思っているところでございます。

私は、札幌で市長をやっております12年たちますけれども、音楽というものがいかにまちにとって大切なのかということをはとえに思いながら、この間、活動してまいりました。

札幌には、「好きですさっぽろ」という言葉がございます。札幌人は、札幌が大好きであります。90%以上の市民が、このまちが大好きというふうに、アンケートを何回出しても9割以上の方が「好きです」と言っております。そして「好きですサッポロ」という曲がございまして、これは札幌人はみんな知っているというぐらいの名曲になるのですが、これも、「好きですさっぽろ」なのです。

私は、「好きですさっぽろ」では、少し物足りないというふうに思っております。どういう札幌がいいのか、それは私は「好きです」ではなくて「誇り」の持てるまち札幌にしようと、そんな思いでやってまいりました。「好きです」はもちろん大事なことでありますが、「好きです」は単に何か行政サービスなり、あるいは文化なりの受け手としての立場からの発想ではないかなと、こんなふうに思います。そうではなく、このまちを好きだ、このまちを支えている一員なんだというふうに思うことによって、私は、このまちをどんなことがあっても支えていくぞと、そういう誇りを持てるそういう人になる、市民になることが大事ではないかなと、こんなふうに思っております。

オーケストラもそうであります。このオーケストラが好きだ、私たちは札幌が好きだ、

山形の皆さん方は山響が好きだ、こういうふうに見える、それは大事なことであります。でも、もっと身近に自分たちが山響を支えるのだぞ、そしてファンをふやしていくのだぞ、そういう活動を担っている皆さん方はきっと好きだ、だけではない。皆さん方は、山響に対しては誇りを持つ、そして山形市を、山形県を誇りに思う県民であり、そして市民であると、このように私は確信をいたしております。

そういう市民が、そういう県民が大勢生まれてくるように、山響は努力をするでしょうし、それを支える皆さん方の活動というものが、まさにこれからの社会にとって大事な、そしてさまざまな困難がこれからの社会には訪れてまいります、その中で本当に力を発揮できる、いろいろな局面を打ち破っていくことができるサステナビリティといえますか、持続可能な発展をしていくために私たちはそういう市民なり県民に、あるいは国民にならなければいけないのではないかと、そんなことを思っているところでございます。

話は大きくなりましたけれども、ぜひ皆様方の地元で活躍をオーケストラを何かと大事にし、そして行政も、そういう皆さんがいればこそしっかりと支えていくんだぞ、そんな決意をしやすい状況をつくっていくということをみんなで進めていこうではありませんか。

きょうは、山響ファンクラブの皆さん方の本当にこのすばらしいアイデアのもとに、スタッフの皆さん方から聞きますと、初めは理事会から始めようかというふうに思われたそうでございます、ワールドカフェ形式といえますか、こういう J O F C C a f a という、こういうような形で全国の皆さん方のお土産を皆分け合って、お菓子を食べながら、和やかな雰囲気の中でみんな発言して、そしてみんなで意見を聞きながら、いい時間を過ごしながら総会を持つことができることを、心からその御労苦とアイデアに対して感謝を申し上げながら、御挨拶にかえさせていただきたいと存じます。きょう一日、皆楽しんで、そしていい思い出を持って、みんなでこれからの活動をしましょう。どうかよろしく願いを申し上げます。

ありがとうございました。(拍手)

○司会(山田) ありがとうございました。

各団体の紹介

○司会(山田) では、ここで各団体の紹介にまいりたいと思います。

紹介をしてくださるのは、J O F Cの幹事長西川吉武様です。よろしくお願ひします。

○西川幹事長 幹事長を務めております西川でございます。

皆さん、本当によろこそいらっしゃいました。このJ O F Cも今回で9回目、総会としては8回目の設立総会含めて9回になります。こんな中に、こんなにたくさんの方々がお集まりいただきました。

それでは順番に各団体のお名前を呼びますので、全員立っていただいて、皆さんが拍手をしていただければと思います。

それでは、この総会に参加している方たちを紹介します。

まず、何をおいても一番の仙台フィルハーモニークラブの皆さんです。(拍手) さすが開催地のお隣だけあって、たくさんいらっしゃっております。

続いて、群響ファンズ。(拍手)

続きまして、石川県立音楽堂楽友会の皆さんです。(拍手)

続きまして、名古屋フィル・ファンクラブの皆さんです。(拍手)

それから、広響フレンズの皆さんです(拍手)

そして、まだオブザーバーですと言っているのですが、もう会員同様に私どもは扱っておりますが、都響倶楽部の皆さんです。(拍手)

そして、私ども所属しております札幌くらぶです。(拍手)

そして最後に、皆さん一層拍手を大きくしていただきたい、今回の主催元、山響ファンクラブの皆さんです。(拍手)

以上で、御紹介を終わらせていただきます。これからのいろいろなC a f aが楽しみです。

では、進めてください。よろしく申し上げます。

○司会(山田) ありがとうございます。

来賓紹介

○司会(山田) 続いて、来賓の御紹介にまいりたいと思います。

先ほど、挨拶してくださいました、日本プロオーケストラファンクラブ協議会の会長、上田文雄様でございます。(拍手)

そしてそのお隣、山形県企画振興部長、高橋広樹様です。(拍手)

山形交響楽団音楽監督、飯森範親様です。(拍手)

○飯森山形交響楽団音楽監督 きょうは1日、山形交響楽団の演奏と温かい心のこもったおもてなしを山響ファンクラブの皆さん、たくさんふえますので、ぜひ1日楽しんで帰ってください。よろしく申し上げます。(拍手)

○司会(山田) 山形交響楽協会理事長、園部稔様です。(拍手)

○園部山形交響楽協会理事長 ようこそいらっしゃいました。(拍手)

○司会(山田) 山形交響楽協会専務理事、斎藤正志様です。(拍手)

○斎藤山形交響楽協会専務理事 ようこそ皆さんいらっしゃいました。ありがとうございます。よろしくお願いたします。

来賓あいさつ

○司会(山田) ここで、来賓の御挨拶にまいりたいと思います。

まずは、山形県企画振興部長、高橋様からお願いします。

○高橋山形県企画振興部長 皆さん、こんにちは。まずもって、このように多くの皆さんが、遠路はるばる山形までおいでいただきましたことを心から御礼を申し上げるとともに、そして心から歓迎を申し上げたいと存じます。

本日は、こういうせつかくの機会ですので、ぜひ吉村知事に御挨拶をと御案内をいただきました。あいにくでございますが、吉村知事は、本日までシンガポール、マレーシアのほうに出張してございますので、恐縮でございますが、私のほうから吉村知事のメッセージを代読させていただきたいと存じます。

「日本プロオーケストラファンクラブ協議会山形大会が、本日、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げますとともに、全国各地から山形にお越しいただきました皆様を心から歓迎を申し上げます。

また、協議会の皆様におかれましては、地域のプロオーケストラの活動を支えられ、音楽文化の振興と発展に御尽力されておられますことに対しまして、深く敬意を表する次第であります。

本県では、山形交響楽団の音楽を愛する方々が中心となって、平成12年に山響ファンクラブが創設され、以来、現在までさまざまな活動を通し、山響の楽団員や会員との親睦を図りながら、クラシックファンの拡大に努められておられます。山響ファンクラブの会員の皆様同様、熱い思いで各地域のプロオーケストラを日々精力的に応援されている方々が一堂に会し、情報交換と交流を深められますことは、大変意義深いものであるものと考えております。皆様におかれましては、演奏家と聴衆のかけ橋として、プロオーケストラの魅力が一人でも多くの方々に浸透するよう、さらなる御活躍を御期待申し上げます。

山形は、全国で高い評価を受けているお米「つや姫」の新米や新そば、キノコ、リンゴや西洋梨のラ・フランスといった果物など、秋の味覚満載の季節を迎えております。今回の御来県を機に、山形ならではのおもてなしに触れていただき、山形ファンになっていただければ大変大きな喜びでございます。

結びに、日本プロオーケストラファンクラブ協議会の今後ますますの御発展と本日御参会の皆様の御健勝を祈念いたしまして、歓迎の御挨拶といたします。

平成26年11月23日、山形県知事吉村美栄子。」

本日は、大変おめでとうございます。(拍手)

○司会(山田) ありがとうございます。

続きまして、山形交響楽協会理事長園部稔様から、御挨拶をいただきます。

○園部山形交響楽協会理事長 皆さん、こんにちは。ようこそ山形にいらっしゃいました。

きょうの第8回のJOF C総会山形大会2014が、このように盛大に開催されましたことまことにおめでとうございました。また、きょうは、先ほど御挨拶いただきましたJOF C会長の上田札幌市長さんには、はるばる山形までおいでいただきまして、まことにありがとうございました。そしてまた音楽ファン、あるいはオーケストラの関係者に対しまして、大変力強いお言葉をいただきまして、ありがとうございました。

そしてきょうは、東京はもちろん、札幌、広島、金沢、群馬、仙台から、かなりたくさんの方々がいらっしゃいまして、このように盛大に開催されました。誠に心強い限りであります。今、恐らく山響の話題に入ると思いますが、地方のオーケストラ、なかなか厳しい状況にあります。山響もまさにそういう状況にありますけれども、きょうこのように皆さん多数の方が集まって、同じ、きょう、その立場で、協会からもいろいろお話があると思いますが、言わせていただくということで、私としましては非常に日頃から心強い感じがいたしておりますけれども、改めて力を得たような感じをしているところでございます。

また、山響ファンクラブの方々には、きょうこのように盛大に開催させていただきました。まことに御苦労さまでした。また、この作業をはるばるオーストラリアからいらっしゃりましてありがとうございました。ずっと山形でしたので、去年まで熱烈な山響ファンでありましたので、きょう、わざわざおいでになっていただいたことを に思います。

山響は、創立以来42年になります。恐らく、すごく古いほうになるのではないか思い

ますけれども、一時は山形県は音楽後進県と言われる時代もありましたけれども、今はおかげでさまで東北地方の中では、宮城県とともに先進県というふうに言われるようになりました。これもひとえに飯森 音楽監督に迎えていただいて以来、私から言うのもちょっとおこがましいですが、レベルが上がって全国での評価も大変高い位置に来ております。

きょうの演奏会もそうですけれども、地元ファンの方がどれぐらいいらっしゃるかというのは、なかなか厳しい問題もありますけれども、やはり音楽のレベルを上げて、そして皆様にアピールできるということで、ファン層も喜ぶのではないかなと思うのですけれども、山形交響楽団は創立以来定期演奏会、あるいは依頼演奏会のほかに、スクールコンサートということを中心にやってきました。

これは毎年90校、あるいは時には100校近い小中学校を回って、生のオーケストラを生徒さん方に聞いていただくということでありまして、最近は少子化のこともありまして、場合によってはプレーヤーよりも、生徒の数が少ないということもあるのですけれども、そういうことも乗り越えて演奏を続けているということでありまして、子供のときから生の演奏に触れるということが、大人になってからもクラシックファンになっていただくと。世界的に見てクラシックファン層というのは、都市人口の3%というふうに言われているらしいですが、山形ではそれをクリアすべくこの活動を続けています。おかげさまで演奏会もたくさんの方々に来ていただけるということでございます。

山響の特徴としましては、一つは先ほどのスクールコンサートでありますけれども、もう一つは、これは飯森音楽監督のもとでアマデウスの交響曲を8年かけて、全国、全曲演奏するという企画がありまして、ちょうどことしが8年目、来年の2月に最終回になりますけれども、それで全国、全交響曲を演奏するということになります。これは伴奏の前で恐縮ですけれども、モーツァルト時代の古楽器主体の演奏を取り入れた形でやっていくということで、これも山響の団員の皆さんの技術が高いということで、発表ができるのではないかなというふうに思っているところでございます。

それからもう一つは、これは皆さん方 があるかもしれませんけれども、山形には音楽では山響ですけれども、スポーツ関係でモンテディオ山形とってJ2ですが、いまだ第6位で、きょうが、第6位に入れるかどうか、最終戦がありまして、いつもでしたら私も行くのですが、きょうはこちらに来ました。そのモンテディオ山形、それからもう一つ、パスラボ山形というバスケットのチームがあります。二つともアンセムを持っているのですね、恐らくプロのサッカーチームでもというのがアンセムを持っているのは、モンテディオ山形ぐらいではないかなと思うのですけれども、このアンセムを全国から募集をして、そして発表会を盛大にやったということがありまして、そういうこともスポーツの一つの応援になっているのかなと思います。

おかげさまで、モンテディオ山形とそれから山響というのは、山形県の大きな宝だと言われる状況にもなってきております。我々の、きょう皆様方の力強い言葉、いろいろ力を得まして、そしてこれからもなお一層、山響発展のために尽くしていきたいなと思います。どうぞ山形にも、当地で成功されまして、ぜひ私ども協議会がますます発展されますよう、お祈り申し上げまして、歓迎の御挨拶とさせていただきます。きょうは本当にありがとうございました。(拍手)

○司会 (山田) ありがとうございました。

ここで、メッセージが1通届いておりますので、代読させていただきます。

名古屋フィルハーモニー交響楽団理事長の水尾健一様からいただきました。

第8回J O F C山形総会の開催を心よりお祝い申し上げます。私もぜひ参加をして、皆さんの御意見を直接お聞きしたいと思っていたのですが、所用のため残念ながら出席ができませんでした。私ども名古屋フィルハーモニーも常に収益上の問題を持ちつつ、いかにお客様に喜んでいただけるオケになるかと、努力をしております。そういう意味で、ファンクラブはまさしくお客様の代表であり、厳しいことを言っていただきながら、その発展をサポートしていただく組織として、私どもにとって不可欠な存在であると、私は考え感謝しています。今回の総会を通じて、ファンクラブのいろいろな問題についていい議論をされ、また親睦を深められ、大いに成果を上げられるとともに、各オケの一層の発展に引き続き、大きな支援をいただけることをお願い申し上げます。

J O F Cの皆様の御努力により、クラシック音楽を楽しむファンがより一層拡大し、音楽を通じてすばらしい人の輪が広がっていくことを心から切に願っています。

平成26年11月23日、名古屋フィルハーモニー交響楽団理事長水尾健一様。ありがとうございました。(拍手)

活動報告（総括）

○司会（山田） それでは、各団体の報告の総括にまいりたいと思います。

ここで、J O F C事務局の事務局長武藤義典様、お願いします。

○武藤事務局長 J O F Cの事務局長を務めております札幌くらぶの武藤でございます。よろしくお願いたします。

それでは、各クラブの活動報告を総括したもので報告させていただきますので、よろしくお願いたします。

これは、皆様方、各クラブからお送りいただいた活動報告をもとにしまして、作成してまとめたものでございますので、その内容は、J O F C i n山形14の開催に当たって、山響ファンクラブが「会員数と動向」「運営について」「実施事業」「会員特典」「楽団支援事業」などについて自身を含めて実施したアンケートを札幌くらぶ、仙台フィルハーモニークラブ、群響ファンズ、名フィル・ファンクラブ、石川県立音楽堂楽友会、広響ファレンズとオブザーバーとして、都響倶楽部から取りまとめた内容を集計、分析した結果を総括して報告いたします。

1. 会員数と動向。

所属会員数は、100名前後から400名超えとなっておりますが、100名前後が4クラブ、それ以上が3クラブとなっており、会員数の増減ではプラスマイナスゼロが3クラブ、プラスが3クラブ、マイナスが2クラブとなっていて、全体としては微増の状態です。

増減の要因となっているのは、入退会が落ち着いているものの、高齢化によるとしたクラブも多くなってきております。

活動会員比率は、5%から100%まで各クラブばらばらとなっておりますが、会員数が多くなるにつれ活動会員の比率が低くなっているようです。

世代構成・地域については、40代から70代と幅広い構成ですが、中には40代、現役世代が多いクラブもあり、会員の地域はおおむねクラブ所在都市か、その周辺が大部分

を占めているようです。

2. 運営について。

スタッフ数は、一けたが3クラブ、二けたが5クラブで、運営会議などの開催は月1回以上とされるクラブが大半ですが、スタッフに現役世代が多いクラブは、時間やスケジュールの調整に苦労されているようです。

予算規模は、20万円から40万円のクラブがほとんどで、ほぼ会費で運営しています。情報公開は、会報によるクラブが多く、次いでホームページでも行っているようです。スポンサーシップがあるのは、2クラブのみです。

3. 実施事業。

ここに表がございますが、表の中に交流会・パーティー等、茶話会・懇談会等、セミナー・演奏会等、練習・ゲネプロ見学会、演奏会鑑賞旅行等、会報の発行、回数・刷り色・部数、それから楽団グッズ販売、その他について書きました。

この表によると、交流会・パーティー等は全てのクラブが実施しており、クラブ運営の必須アイテムとなっているが、意外と少なかったのが、練習・ゲネプロ見学会です。

表では、3クラブが実施中で、1クラブが検討中である。

会報は、ほぼ全てのクラブが年2回から4回発行しており、毎月1回発行しているクラブも1クラブあります。また、印刷もモノクロが4クラブ、カラーが3クラブもあります。

楽団グッズ等販売については、検討中が1クラブだけで、現状は実施しているクラブはありません。在庫保有など、この事業の難しさを示していると思われます。

その他では、注2から注7までのように、各クラブの工夫が見て取れます。

4. 会員特典。

楽団チケット割引は、5クラブが特典として楽団から受け、会員サービスを行っていません。CD・グッズ等の提供について行っているクラブはなく、CD購入も1クラブのみ販売店と提携しています。

また、飲食店と提携して割引を受けているクラブも1クラブあります。

5. 楽団支援事業。

寄附は、4クラブが楽譜支援、維持会員、賛助会員などの方法で寄附を行っているほか、チケットプレゼントやファンズシートを設けて招待、または協賛金を受けて中学生を定期演奏会ごとに、送迎バスつきで招待しているクラブも一つあります。

ボランティアは、4クラブがチラシ折り込みやチラシ配布、会場整理、ワークショップ、もぎりなどの業務を行っています。

演奏会発行物としては、2クラブが独自の印刷物を楽団と協力を得て実施しているし、クラブのホームページでも楽員の演奏会を紹介しているクラブもございます。

6. 共通の質問。

Q1. 環境、楽団、地域現状、Q2. 1年間最も進歩した点や力を入れた活動、Q3. 現在困っていること、Q4. JOFCに期待すること及び自由記入では、楽団の状況、地域の独自の事情、クラブの事情などから多種多様な喜びや悩みが報告されることも、この2ページでの紙面ではまとめきれないのが現状です。

については、各クラブの活動報告をお読みいただき、それぞれの喜びや悩みをお酌み取りいただければ幸いです。

以上でございます。(拍手)

○司会(山田) ありがとうございます。

ここで、飯森様が、この後のリハーサルの御都合で途中退席されます。お忙しい中、ありがとうございます。(拍手)

また、山形県の企画振興部長、高橋様もこの後の御予定が多忙だということでお帰りになりました。本当にお忙しいところありがとうございます。

会則の改正・人事案件

○司会(山田) 引き続き会則の改正、そして人事議案についても、武藤様、よろしくお願ひします。

○武藤事務局長 それでは続きまして、日本プロオーケストラファンクラブ協議会会則の一部改正についてを提案いたします。

日本プロオーケストラファンクラブ協議会会則(平成18年11月11日総会議決)の一部を次のとおり改正する。

第10条を次のように改める。

第10条 本会に顧問を若干名置く。

第2項 顧問は、本会の役員を退任したもの及びクラシック音楽に関する知識を有する者のうちから、本会の活動に有意義な助言を与え得る人格、識見にすぐれたも者を役員会で推薦し、会長が任命する。

第3項 顧問を任命したときは、直近の総会でこれを報告する。

第4項 顧問の任期は、本人から退任を申し出たとき終了する。

第5項 顧問は、本会の求めに応じ、その内容に関して適切な助言をするほか、本会の運営に関し助言をすることができる。

附則。この会則は、平成26年11月23日から施行する。

改正の趣旨。

副会長を退任された方の顧問就任を要請し、受諾いただいたことに伴い、日本プロオーケストラファンクラブ協議会に顧問を設置する第10条の顧問を委嘱するものの任命基準、任期、任務に関する規定の全部を改正するもので、改正と同時に施行したい。

以上です。

○司会(山田) それでは賛成の方、拍手でお願いします。(拍手)

賛成多数ということで、会則の改正・人事議案は可決されました。

武藤様、ありがとうございます。

続いて、人事の議案をお願いします。

○武藤事務局長 役員・幹事等就任予定者の発表をさせていただきます。本来は、これは会長のほうからやらなければいけないことなのですが、かわって私が代読させていただきます。

敬称は省略させていただきますので、よろしくお願ひします。

会長、上田文雄、札幌くらぶ会長。

副会長、長島榮一、仙台フィルハーモニークラブ会長、新任。

副会長、東海林雅子、山響ファンクラブ会長、新任。

副会長、小野善平、群響ファンズ会長。

副会長、石井慎一、名フィル・ファンクラブ代表幹事、新任。

一応、これについて採決をお願いします。

○司会（山田） 賛成の方、拍手をお願いします。（拍手）

ありがとうございました。

続いてをお願いします。

○武藤事務局長 会長が指名又は任命する役員としまして、会長にかわり代読させていただきます。

幹事長、西川吉武、札幌くらぶ副会長。

幹事、佐藤佳世、仙台フィルハーモニークラブ事務局長。

幹事、保科誠、山響ファンクラブ事務局長。

幹事、石守晃、群響ファンズ事務局長。

幹事、山田博子、名フィル・ファンクラブ代表幹事、新任です。

幹事、静岡俊郎、石川県立音楽堂楽友会代表幹事。

幹事、佐藤幸一、広響フレンズ。

事務局長、武藤義典、札幌くらぶ事務局長。

顧問、工藤一郎、仙台フィルハーモニークラブ顧問、新任。

顧問、加藤聡、山響ファンクラブ顧問、新任。

以上についてをお願いします。

○司会（山田） 賛成の方、拍手をお願いします。（拍手）

ありがとうございます。

これで人事議案を信任されました。

それでは、新任役員を代表しまして、新顧問に就任されました工藤さんに一言お願いします。

○工藤顧問 皆様、ようこそいらっしゃいました。札幌くらぶの方は御存じだと思うのですが、ちょっと古い話になりますが、1980年代の一時期に仙台フィルハーモニー管弦楽団と札幌交響楽団の合同演奏というのが、4年間続いたことがあるのですね。お互いの本拠地を1年置きに訪問しまして、今では考えられないようなすばらしい企画があったのですけれども、私は、そのときはもちろん聴衆としてそれを聞いています。

この間、あるところに、それについて書く必要が出てきて、仙台フィルの事務局にちょっと調べようとしたのですね。そうしたら、そのときのこと知っている人、誰もいないのですよね。そこで逆に私のほうがいろいろ教えてあげたりして、それからもあるのです。それで仙台フィルを応援します。私だけ、SPCなのですからけれども、SPCの歴史も約20年になんなんとしているわけですからけれども、その後、中で12年間、私、やったことになるのですよね。どう見ても私ちょっと古すぎると、世代交代ということは何の世界でも必要だと思いますので、SPCには人材が豊富ですので、長島さんに後を譲りまして、私は隠居をすることにいたしました。JOFCの中でもやっぱり少しだけでも、古いことだけは知っておりますので、しゃべることがありましたら、うれしいなと思っています。

よろしく願いいたします。（拍手）

○司会（山田） 工藤顧問、どうもありがとうございました。

JOFCCafe（仮）テーマ別グループトークとゲネプロ見学

○司会（山田） それでは、JOFCCafe（仮）にまいりたいと思います。

テーマ別グループトークとゲネプロ見学会というふうにサブタイトルがついております。

では、簡単にその流れを御紹介します。こちらのスクリーンごらんください。

まず、この後のタイムテーブルです。

今、1時10分をちょっと過ぎておりますが、このタイムテーブルでいきますと、1時から共通のイントロダクションということで、今、御案内をさせていただいております。

そしてテーマに、ゲネプロ見学のグループですけれども、その後、見学会の説明をさせていただきますまして、その後、ゲネプロ見学会にまいります。さらに、アンケート記入ということで、10分間休憩を挟みます。その一方で、テーマA-1グループトークのをしますけれども、最初自己紹介などなど、そしてグループごとに話し合い、そしてそれをほかのグループと話し合いまして、振り返るということでございます。10分間の休憩で合流しまして、それぞれのグループごとに発表ということになっております。

大まかに説明させていただきました。最後に講評をいただきます。

今回、簡単に三つの大事なことを御紹介させていただきたいと思います。

まずは、今回はとにかく楽しく、そしてできる範囲で、新しい経験を共有していただきたいということでございます。

二つ目です。それぞれのテーマをきっかけに、JOFCCの仲間を新たにつくっていただきたいということです。この新たな出会いが、次のプロオーケストラの新たな力になっていくと信じています。

三つ目、お互いを尊重しまして、助け合いながら未知の時間を過ごしていきましょうということでございます。未知の時間を過ごすというのは、一番の大きな楽しみかなと感じております。

以上の三つの大事なこと、これを心にとめながら、それぞれのグループごとにグループトーク、もしくは見学にまいりたいと思います。

それでは、グループ2の方、見学会のほうにお進みにいただければと思います。よろしくお願ひします。

その他のルールを簡単に御紹介しますね。このお部屋の後方、後ろのほうにカフェコーナーがございます。おいしいコーヒーなどなどを御用意しておりますので、御自由にお使いいただければと思います。そして一番端ですね、交流ロビーに展示してあります山形食品の黒い缶のジュースですね、このディスプレイはその後、午後2時半までとなっております。その後は、演奏会場で、お買い求めいただければと考えております。

何か御質問ある方がいらっしゃれば、随時、私どもお答えしますので、気軽にお声かけください。

それでは、早速、グループごとに自己紹介をそれぞれしていただければと思います。先ほどのメンバー全員で、四、五分くらいでお名前、所属団体ですとか、この1週間で一番CDや演奏、私はちなみにゴルトベルクの演奏です。一番楽しみにしていること、これをいろいろお話いただければと思います。では、この後、6分と書いてありますけれども、

5分でよろしくお願いたします。

(テーマ別グループトーク)

発 表

○司会 (山田) では、グループ発表にまいりたいと思います。

そこからは再び上田さんと飯森さんにも参加していただいて、後ほど講評をいただきたいと思います。お二人、どうぞよろしくお願いたします。

2分で発表、1分間でコメントというふうに申し上げましたけれども、3分間自由にお使いいただいていいので、ただ、3分厳守でございます。あと1分になりましたら、こんな音が出ます。もう1回この音が鳴ったら、そこで終了でございます。

発表の場所は、前に出てきていただいてもいいですし、その場で発表していただいても構いません。もしその場で発表していただく場合は、ワイヤレスのマイクがありますので、そちら対応となります。

では、Aの1からまいりましょうか。

○上田会長 ではシンプルに全員前に出ていただいて、発表していただくのがいいかもしれないですね。

○司会 (山田) そういうわけで前に出てということになります。ではAの1、よろしくお願いたします。

○A-1 Aの1は、イベント企画というテーマが与えられました。交流会、演奏会、セミナーなど、ファンクラブ各種企画・事業について情報共有とアイデア創発ということなのですけれども、基本的にAの1のグループでは、山響とSPCと札幌くらぶ、3団体しかおりませんでしたので、現在やられていることをちょっとリストアップしまして、山響では芋煮会、演奏会後の交流会と忘年会というのがメインになって、SPCの人はおもしろセミナー、楽団員のプロの方の演奏会というのをやっているのですね。あと、それとチケットプレゼント、SPC通信の配布、札幌くらぶとしては、総会後の交流会、クリスマスパーティ、そこに楽団員と一緒にやっております。札幌くらぶサロンというところで、札幌の過去の演奏会の録音を聞いて聞き比べ等、そういったようなことをやっております。これらの中の当然いいことと悪いことと、特に山響なんかで言うと、ファンクラブの人だけしか参加できない、そういったようなことがあったものですから、もっと一般の人、クラシックを聞いているのだけれども、ファンクラブに入っていない人に、どうやってそれを周知させるのだという、そういったようなことが出てきました。

それぞれのSPCの方々も定演のときに、なるべく多くの人にSPC通信を渡すことによってファンの拡大が図れるのではないかと。札幌くらぶの方もそういう面で、要は何を目的にするかといったら、やっぱりファンクラブの会員の拡大することによって、オーケストラの音楽文化による地域の活性化とクラシックファンの人口をふやすことによって、地方の創生に役立てるのではないかと、そういったようなことを考えました。それが、できればオーケストラと共催でできる、一緒に、ファンクラブだけではなくオーケストラと一緒に共催することによって、総合的に音楽文化に貢献できるのではないかというふうに考えました。

こんなようなことでまとめてみたのですけれども、なかなかうまくまとまらなかったのですが、そんなことで。(拍手)

○司会 (山田) ありがとうございます。

ちなみに、これで大体2分50秒台です。

続きまして、Aの2のグループ、よろしくをお願いします。

○A-2 私たちは、Aの1とAの3の間でございまして、イベントと会報の中間のことという話で、かなりかぶることが多いのですけれども、要するに楽しいことを広めましょうということ、どのようにしてファンクラブのメンバーを拡大するかということもありますけれども、それぞれやっていることなるべく露出の回数をふやすといいますか、コンサート会場にファンクラブのコーナーを設けて、こういうことをやっているよということを積極的に知らせるといことも大事ですし、それぞれまずはオーケストラがあつてのファンクラブですけれども、楽団員の方と仲よくなるという、ファンクラブに入ったメリットということも広く、またファンクラブのメンバーでない方に広く知らせる、ファンクラブに入るとこういう利点があるよ、こういういいことがありますよ、楽しいことがありますよということを知らせるといことも大事だと思います。

名フィルさんのほうで特に強調されていたのは、3,600円の年会費のうち、一人に当たり600円は、名フィルさんに寄附されているお金になっているそうです。それぞれの団体で楽しいこと、いいことをやっているのですが、要するに楽団員さんとファンクラブのみんなが仲よくなって、よりいいことを皆さんに広めていきたいということでもあります。こんなところしかないのです。(拍手)

○司会 (山田) ありがとうございます。

続きまして、Aの3のグループ、よろしくをお願いします。

○A-3 Aの3のテーブルでは、会報・広報紙について話し合いをしました。

会報のこれからというテーマで話をしまして、まず最初にどういうふうな印象を持っているかということ、カラー化したいという声がありましたが、そこでそれぞれのブロック・地域の現状の発表なのですけれども、例えばカラー化をすることのメリット、それに対するいろいろな効果というものを考えていったところ、私、SPC、皆さんにお配りした会報それを具体的に、費用としてはほとんど白黒でやるのと同じぐらいの料金でできるのですけれども、実際これ、渡されたら読まないよねという声が出てきました。なぜか、ちょっとレイアウトとか、詰まりすぎていて大変だと、そういうところから内容のほうに波及していきました。広報紙のあり方としては、一体どういうものが、これはやっぱり会員獲得に結びつけたいという広報のあり方というものがあります。

それから、オーケストラと市民をつなぐという役割がある、そういうところにいかに読んでもらうかというところで、内容が大切である、それから編集の仕方がある、その中で印刷関係に詳しい方からアドバイスをいただきまして、レイアウトのめり張りとかそういうものが大切である。そういう中から、必ずしもカラー化だけがそういうことの解決手法ではない、モノクロでも非常に読みやすい、一枚物でも読みやすいものができる、十分できるということ。

それから、ちょっと勘違いしやすいのですけれども、ボリュームがあるということ、ちょっと読むのが大変ということで、逆に読みにくい、嫌われてしまうということも出てい

るということになりました。

そういうところで、皆さんそれぞれの経験とテクニックなどを一々教え合うような場面にもなりまして、大変有意義な会議となりました。これから、いろいろと広報の活動に励んでいきたいと思えます。済みません、こんな感じでありありがとうございます。(拍手)

○司会 (山田) ありがとうございます。会報の方法について貴重な御意見でした。

続いて、Aの4、楽団支援、物販、その他というテーマで発表していただきます。よろしくお願ひします。

○A-4 こちらはAの4です。楽団支援とか物販のことで話し合いました。

楽団支援については、もしかして3億円当たたらなんていうことを考えながらやっていきました。激務の団員さんにマッサージ券を差し上げたい、入浴券をあげたいというふうなこと、あと楽団支援としてはこれだけ、楽器の購入の補助をしてあげたい、そんなふうなことが出ました。

あとは、冠コンサートのスポンサーをみんなで探そう、もうかっているところとしては、実際はどうかわかりませんが、薬品会社が相当もうかっているのではないかとということで、薬品会社あたりにこういうのを持っている人が、ファンクラブの中にもいないかどうかなんていうのを、徐々に探していったらどうかなんていう話にもありました。あと、大型スーパーとかそんな話になりました。

あと、グッズとしては、楽員さんカレンダーというので、定演の日を入れたもののカレンダーなんかどうなのだろうかとか、エコバック、マグネット、紅茶、紅茶なんかも山響さんなら山響のイメージをテイस्टィングしたようなフレーバーティーとか、そういうふうなものを考えたらどうかなんていうような話になりました。

あと、きょうはぜひ皆さんにやってもらいたいなというので、きょうからなのですけれども、ファンクラブで、みんなでスタンディングオベーションをやりましょうということ、きょうから始めませんかということになったのです。ですから、きょう、コンサートが終わりましたら、ここに出ている人たち皆さん忘れないでいて、ポーッとしないでください。コンサートが余りによくポーッとしていたと言わないで、席が隣に離れていてもちゃんと立ってスタンディングオベーションをして、楽団員さんを応援しましょう。いかがでしょうか。こんな感じが上がりました。

以上です。(拍手)

○司会 (山田) ありがとうございます。

続いて、Bのグループに行きたいのですが、BのグループはJ O F Cとファンクラブの運営という大きなテーマについて話し合っていました。まずBの1なのですけれども、J O F Cの活動・総会・拡大についての話し合いをしていただきました。それではBの1のグループの発表、よろしくお願ひします。

○B-1 Bの1では、大きなテーマとしては、先ほど話しましたJ O F Cの役割ということが一つの大きなテーマと、もう一つは、高齢化を初めとする各ファンクラブの抱えている重要な問題について意見を交わそうということになりました。

J O F Cの役割については、なぜこのテーマを取り扱ったかということ、なかなか7団体からふえてこない、そういう状況の中で、一体何のためにJ O F Cが設立されたかということに関して改めて問い直して、今、クラシックのファンがなかなかふえないという危

機感、ファン層を拡大しなければいけないというところに立ち返ったときに、クラシックファンの拡大を目指すためには、オーケストラのファンクラブが存在して、そのこと自体がオーケストラのほうにアピールすること自体にすごく意味があるのだということを改めて確認した上で、私はどうでもいいと思うのですけれども、札幌市長が会長でJ O F Cなくなった場合、今後困るだろうという提案もあったので、私は札幌の人間なので、そんなの大した問題ではないと言ったのですが、一応、危機感は、問題提起はされました。

各クラブでは、むしろ現役世代が多いことが悩みだというファンクラブもありますし、中心メンバーが離脱したときに非常につらかった。だけれども、そういう中心メンバーが離脱したのを持つようなファンクラブが、自動的にできるということを維持できるために、そういうためにJ O F Cの横のつながりこそ大事なのだということを改めて確認されました。だから、むしろ次のステップで、もう開催地をファンクラブが存在するところに限らず、どこかでやってしまうと。居酒屋を借りて広島でやってしまうとか、東京でやってもいいのではないかとということまで、テーマが発展したということなのです。

高齢化問題、重要な問題に関しては、自分たちがオーケストラを応援するその後押しをしているということに関して、特典目当てになってしまっている方たちもいるのだけれども、そういうのをどうやって打破したらいいかということで、自分たちが文化を支えているということを自覚してもらおうということ、市民が自立して楽団員と身近になるということ、それを自覚してもらって、そういうことでオーケストラのほうも聴衆の声を聞いて、その意見を反映させてということ、うまくいけば、活性化されるのではないかとということになりました。

チンも鳴ったので、まとめに入りますが、まとめとしては、結局、定数ベースがよくて、お互いからの、やっぱりこうやって年1回集まるのはいいということなのですから、ファンクラブを超えて、例えばこういう準備は、よそのあの会の誰に頼みたいなということまで、お互い人間関係がつかれるともっといいよねということと、総会は年1回必要で、なかなか負担も多いから年2回総会やることはできないけれども、年1回の総会と2年に1回ぐらい総会ではない何か研修というか、研修というのはネームはともかくとして、何かもっと柔らかい集まりができたらいいのではないかなということ、まとめになったということなのです。

終わりです。(拍手)

○司会(山田) ありがとうございます。なかなか答えが出しにくい議論に関して、とても貴重な意見だと思います。ぜひ大阪でも、J O F Cの総会、開催されたらいいなと思いつながり聞いていました。

続いて、Bの2のグループです。J F C運営の課題、会員の拡大というテーマについて話し合っていました。では、よろしくお願ひします。

○B-2 よろしくお願ひいたします。

Bの2は、ファンクラブ運営の課題とファンクラブ会員の拡大について話し合いとなったのですが、要は事務局が今抱えている問題の提起、あとそれに対する意見の共有とか各団体が行っている、実際の活動をお伺いするにとどまってしまうました。

まず初めに、ファンクラブ運営の課題についてですが、やはり一番多く上げられましたのは、どのクラブさんにも割と共通して多かったのは、やっぱりスタッフの高齢化、あと

ファンクラブの会員の高齢化というところが非常に多かったです。その中でも、特に実働スタッフが高齢化していることにより、今のデジタル化社会についていけない。例えば、チラシをつくる、文字をつくるといっても、得意な方が一人でもいらっしやればいいのですが、そういう方がいない場合は非常に困難を極めていらっしやるというのは、声としてありました。それは若い世代がいるところは、逆に現役世代であるがゆえに、集まって会議を持つのが非常に難しい、二人とか三人の方に大きな負担をかけてしまっているという話が出てきました。

あと、これは各団体それぞれなのですが、楽団というまとまり、団体としての交流がうまくいっているところ、もうちょっと頑張りたいと思っているところ、それぞれ問題を抱えていらっしやいます。

あとは、オケの団員さん、それぞれ個人的な交流はできているのだけれども、もうちょっと何とかならないかなと思っている方というところも出てきております。

あとは、どこもあるのですが、ファンクラブに入るのはいい、だけれども、では実際スタッフになって動きましようという方を確保するのと、あと、その運動を次の世代に交代するためのスタッフの確保がとにかく難しいというのが、どのクラブにも共有してみられた問題と思われまます。

では、実際に各団体、ファンクラブ会員の拡大、もしくはファンクラブ運営について、どんなことをしているのかというと、今まで発表あったところとかぶるのですが、おもしろセミナー、楽団員さんに来ていただいて音楽活動と講話をいただいている。あとは、オーケストラを聞いたことがない方に限って年に3回、3組ですから6名ずつですね、チケットをプレゼントしてオーケストラの生の演奏を体験していただくということ。あと、支援グループということで、これは活動の支援、楽団員さんの支援にも入ってしまして、楽団員さんのお子さんの預かり保育の支援もしようではないかということまで話されてございます。あと、楽団の演奏ではないですが、ホールを使っただけの合唱指導等をしたときに、とにかくファンクラブの活動を知ってもらうためのチラシをばんばんまいていたりとか、あと楽団との交流会、あとは自分たちの努力目標としては、各ファンクラブが自分たちの音楽を聴く力、聴衆としての力をつけていきたいねということで頑張っていますという話もありました。

ですので、私たちは各クラブさん、それぞれの問題を抱えているのでそれをお聞きして、自分たちがこれはちょっといただいて使ってみたい、これはトライしてみたいというところをそれぞれ認識したところで終わってしまいましたが、以上でございます。(拍手)

○司会(山田) ありがとうございます。

続きまして、JFC運営の課題とか各種技術ということに関して、Bの3のグループの発表です。よろしくお願ひします。

○B-3 我々Bの3です。ファンクラブの課題と各種技術、技術といってもちょっと難しいので、課題全体について話し合おうというふうなことになりました。

まず一番最初に出てくるのは、やっぱり誰が考えてもそうなのですから、会員数の拡大というふうなことが出てきました。では、会員数を拡大するためにはどうしたらいいのか、まず一番最初に皆さん考えつくのは、何か特典がいろいろありますのでと。ただ、その特典も例えばゲネプロ見学会とか、山形名物の芋煮会をやるとか、そういった楽団員

さんとファンクラブの設定をたくさん結びつけるようなことであるとか、あとやっぱり何がやっているかよくわからないというふうな方もいると思うので、その活動を伝えるというふうなことも、もう1回考えてみたらいいのではないかなんていうこともありました。

あと、いざ入ってみると、やっぱり中で核となって動かされる方の確保というのが、先ほどもあったようでございましたけれども、いろいろ大変だというふうなことがあって、どうしたらいいかねというふうなこともありました。

会員さん、皆さんそれぞれいろいろ自身温度差があって、それ当然だと思うのです。あの人の音楽が聞ければいいと、私が楽しければいいと、私たちが楽しければいいと、自分たちが入っているその建物がよくなればいいと。そこから例えばもっとはみ出して、地域のために何か自分たちもファンクラブに、例えば山形であれば山形の音楽活動の普及につながればいいと、それぞれいろいろ思っていることは違うのですけれども、なかなか価値観の共有もできませんし、間口はやっぱり広く開いて、いろいろな方々が入っていただいて、いろいろな活動をしながら、そういったこともできればいいなど。

もう1回一番最初に戻るのですけれども、ではファンクラブの会員に入ることに一番障害となっているものは何か、やっぱりファンクラブのことをよくわからない人は、そこは非常におっかないところだったらどうしようと。やっぱりそういった不安をひもといてあげて、別に怖いところではございませんというふうなことは、PRしていかなければならないかなと。

山響の場合は、コンサートの後にロビートークみたいなものがありまして、それほかの定期演奏会で必ずやっていることではないのですけれども、山響さんの場合、そういったこともありますし、いろいろPRの機会なんかもありますので、それぞれオケのやっていることとか違いますけれども、自分たちの中でやれることとはたくさんあると思いますので、皆さんといろいろ情報交換しながら考えていました。

ありがとうございました。(拍手)

○司会(山田) ありがとうございました。

続きましてCの1です。ファンクラブとオーケストラという、またこれも深遠なテーマで、発表していただきます。どうぞよろしくお願いします。

○C-1 我々Cの1は、ファンクラブとオーケストラというテーマで論じていましたが、ちょっと話題が飛び飛びになります。そして前のグループの皆様のかぶります意見が多いので、ちょっと大ざっぱに言ってみますが、まずファンクラブへの加入、どこのファンクラブでも人員が少なくなっている。そして新規加入が段々難しくなっているということで、積極的に勧誘しないと人員はふえないということで、各オーケストラの皆さんはファンクラブのブースというのですか、定期会員の部分、定期演奏会のときにブースを設けまして、勧誘台を設けております。山響ファンクラブも、やっていたり、やらなかったりする、なかなか手が足りないのでこの持続ができないという状況にあります。

後は、ゲネプロ見学に関してですが、これは山響ファンクラブの特典なのですが、ほかのクラブでは 響さんがそうなのですが、 の反対もありまして、ブラックボックスだそうです。そして都響も都響主催のリハ見学ですか、年に2回ほどあるということで、仙台フィルさんもですね、やはり楽団、以前はやっていた、今はやっていないということです。ですので、山響ファンクラブは全部出ていると思うのですが、そのことに問

題点ありまして、ゲネプロ見学の人員がふえない。せっかくやっただいていのに、見学者が1人、2人とか、10人いればいいほうかなと思う、とてももったいないことになっております。ゲネプロ見学を通じて、お客様ふえていけばいいかなと思っております。

まとめになります。何をあいても指揮者のサービス精神は、かなり大きいということ、山響ファンクラブに若い人が多いのは飯森さんのおかげです。ということですね、皆さん、どこのファンクラブの皆さんも引っ張りだこでございまして、うちにほしい、うちにほしいということなのですが、山響としたら、我々はあげませんよということで、まず飯森さん感謝いたしますということで、これはまじめでございまして。

以上です。(拍手)

○司会(山田) ありがとうございます。

次は、Cの2のグループ、これもまた深遠なテーマでして、山響・オーケストラ話という、どうつかんでいいのかわからないそんなテーマに関して、ここまで戻すにもたっぷりいただいまして、かなり突っ込んだ議論が行われたものと思います。では、発表をよろしくお願ひします。

○C-2 ここにいろいろなことが書いてありますが、ほとんどここに書いてあることと違う話をいたしました。というのは、我々のところは山響・オーケストラ話テーマなのですけれども、ちょうどここに斎藤さんがいらしたものですから、山響の事務局長で専務理事であられるわけですね。その方がこのテーブルにいらしたものですから、ほとんど独演会のようにお話を承るといふ、あれが強かったですね、ただ、さすがに強い信念を持ってこの仕事に取り組んでおられる方ですので、本当に有意義で意義深いお話を聞けたと思います、参考になる。その熱意のほど、ひしひしと伝わってきました。

それで斎藤さんは、最初、プレーヤーだったのですよね、トランペット奏者だったのです。10年ぐらゐ奏者として過ごして、その後、すぐではないのですけれども、ちょっとブランクあったのですけれども、地元に入られた。そういう事務局長がいらっしゃるのは、すごくいいことであらやましいなという話、私から振ったのですけれども、それが意外とそうではないのですね。プレーヤーにはプレーヤーの立場があるし、事務局というの、また事務局としての立場があつて、プレーヤーから事務局になったから全部丸くおさまったということではなくて、やはり難しさがあるというお話でした。

ただ、我々、聴衆からしますと、今までステージの上にあいた方が、事務局に入られたといふのはとっても親しみやすいし、話しやすいし、いいことなのではないかなと、我々としてはそう思っています。例えば、仙台フィルなんかはコントラバスの主席だった村上さんが、今では演奏事業部長として活躍されていますけれども、とっても話しやすいですね。困るのが、どこかからぼんと来られた方ではありますが、一から説明しなければならない、こちらのほうから解説しなければならないような面も時々あつたりして、そういうのよりは我々としてはとってもいいことなのではないか。

先ほどのお話、その部分は山響の歴史になるわけですね。今、いろいろなところから注目されて、本当に聴衆も一緒に成長してきて、オーケストラ自体も成長してきている、それはやっぱり相乗効果なのではないかということですね。まず、演奏がよくなければいけない、聴衆を集中させるような中身のある演奏でなければならない。それがまた今度、聴衆の質を上げる、質の高い聴衆にまたお聞かせしなければならないということで、オー

ケストラもまた頑張ると、その相乗効果で今まで広がってきているのではないかということです。そのほかにもいろいろな具体的な努力の結果で実行したこと、そういうことも聞かせていただきました。大いに参考になりました。ということです。

ありがとうございます。(拍手)

○司会 (山田) ありがとうございます。

最後に、テーマのD、ゲネプロ見学についての一番おいしい思いをなされたグループからの発表を、佐々木さんからお願いしたいと思います。

○佐々木 大変おいしい思いといいながら、シャイなメンバーが集まった大所帯のDグループです。シャイな方々が聞いた熱い思いを、このようなアンケート用紙に書いたものを一生懸命集計して、札響くらぶの辻さんからお話ししてくださいますので、御静聴お願いします。

○辻 札響くらぶ一般会員 札響くらぶの辻と申します。よろしくお願ひいたします。

きょうの皆さんが、大変な内容をこのお部屋にこもってやっていたら、私たちはオープンなところで聞かせていただいております。その中で素晴らしい演奏に触れることが、とてもうれしく思っております。

このアンケートの内容なのですが、きょうのゲネプロ見学会はどうだったかということですか、あと、そういったものがあつたら参加したいですかとか、そういった内容をお聞きしています。

きょうのゲネプロ見学会についてのこととか、いろいろなことを皆さん興味深く思っていたら、あと指揮者と楽団員さんのコミュニケーションとか、やる気をよくするというのととも内容がよくわかったとか、そういったお話がありました。

あと、ゲネプロ見学できるということでしょうかという問い合わせの中では、予習ができていいとか、理解が深まっていいとか、とてもお得な気分だということだとか、あとは楽団員さんの負担が心配という内容がありました。

あと、ゲネプロの見学会をもっと満足的に見るにはどうすればいいかというところでは、解説が前もつてあつたらいいとか、プログラムを前もつてもらえたらいいとか、あと、ファンの方からの声では、もっと近くで見たいとか、あと指揮者さんの指示をもうちょっとよく聞きたい、そういったお声がありました。あとは、できるだけ参加したい、都合がつけば参加したいということです。

そして、実際、ファンクラブでゲネプロ見学会、やっていたらいいところは少なく、群響さんだけなのなのですが、実施していらつやる中では広響さんがお昼だから見学者が少ないとか、あと山響さんも見学者が少ないといった問題がありまして、特にその中で札響のほうは、一応盛況で盛り上がっているという話がありましたので、何か御参考になればと思っております。

あと、今後の理解や のためには、ぜひやってほしいとか、そういった部分がありました。音楽を知る中で、とても協議が必要になりますし、一般の方々にもとても魅力に映ると思います。そうすれば、ファンの裾野がより拡大されていくと思っております。このゲネプロ見学会をうまく利用していけないかと考えております。

ありがとうございます。(拍手)

○司会 (山田) ありがとうございます。

講 評

○司会（山田） ここで、御来賓の二人から講評をいただきたいと思います。

まず、上田会長から、ぜひともよろしくお願いします。

○上田会長 どうもありがとうございました。

私は御来賓ではなく、主催者ですけれども、仲間に入れていただきまして本当ありがとうございます。すばらしいお話ばかりでありまして、私が札幌くらぶ始めさせていただいたときの気持ちと皆さん方の気持ちは、本当に一つだというふうに思って感動的にお聞きしておりました。

私は、K i t a r a が17年前にできるときに、このK i t a r a のホールをいっぱいにしたい、とにかく札幌の演奏を満席で聞きたいというふうに思いました。どんな名演奏でも僕のためだけに、僕ひとりでK i t a r a ホールで札幌が演奏してくれる、どんな名演でも、おれは嫌だと。これは満席で聞かないとだめだ、これがライブであり、CDで聞く名演であつたりいろいろありますけれども、僕は札幌の曲をK i t a r a で、2003席全員で聞きたい、そして共感の輪が広がるのが音楽の醍醐味なのだという思い込みをずっと持っておりまして、本当に口コミでも何でもいいから、とにかくメンバー、聞く若者に対して「よかったね」と、帰りにみんなで言えるような関係をつくっていききたいなというふうに思っていました。

そのための方法としてクラブ、支援組織をつくって、みんなで支え合っていくという、そのことを忘れないでやっていきたいというふうに思いました。そういう気持ちが楽団員の、間違いなく僕は意識を変えていったのではないかなというふうに思いました。それまでやっぱり芸術家然とした方々がかなり多くて、おれたちはいい演奏していればいいんだろうという、あんたたちは聞けばいいんだというふうな関係があつて、みんなで音楽をつくっていいかという気持ちも少しずつ投げかけまして、はっきり皆様方と共有できるようになってきたような気がいたします。それを成長というか、何というかはわかりませんが、僕は何かいい関係が生まれてきているのではないかな、そんなふうに思っております。

やはり何かをやるときには、支援組織と支援される組織ということではなくて、両方が一緒にやるという、この接点をどうやって設けていくかということが、一番皆さん方にとって大事な、音楽家にとって大事なことでないかなというふうに思います。そのために交流会だとか、いろいろな試みやおられるお話を聞けて、とても参考になるのですけれども、やっぱり組織として楽員一人一人との交流ということと楽団、要するにオーケストラという音楽をどうやって多くの人に聞いてもらうかという、そういうことにどうアイデアを絞るかというようなことだと思います。

先ほど、お金を集める方法として地元の薬局はどうか、スーパーはどうかという話あり、僕はスーパーってすごくいいと思ったのですね。それは、ただ金くれっていうのではなくて、スーパーって音楽流れていませんか。地元のオーケストラの音楽を、BGMで流していただけることにならないでしょうか。そして時々、何々スーパーは山響を応援しますとか、こういうふうな仙台なら仙フィルを、チェーンは仙フィルを応援していますとか、何かそういうふうなことで、聞いている人が事前に自分たちのまちに自分たちのまち

の音楽が流れているのだという、そんな感覚が流れてお金も出しやすい、そういう状況をつくっていくというアイデアを僕らが持ち込まないと、お金を出す人はその方法知らないですよ。だから、いい方法をぜひ、スーパーと言って、よかったと僕思ったのですけれども、本当そういうのを僕は札幌でも絶対やろうというふうに、私、たまたま権力持っていますから、どこかで脅してやろうと思えますけれども、ぜひ皆さん、やりませんか。

本当にありがとうございました。(拍手)

○司会(山田) ありがとうございました。

続きまして、飯森さん、ぜひ講評をよろしくお願いします。

○飯森山形交響楽団音楽監督 皆さん、こんにちは。非常に興味深いお話で、ありがとうございました。この中でオーケストラのファンクラブ以外に入っている方は、何かありますか。たったそれだけ。オーケストラ以外のファンクラブに何か入っている、おられませんか。例えば、サッカー、野球、楽天、ベイスターズ、サンフレッチェ、ほかには？オペラ、何で入ります？美術館、なるほど、どうして入ります？僕は、実はタイガースのファンクラブも入っているし、僕は福岡に住んでいるので、ソフトバンクのこの間の優勝で大変でした、僕、行きましたけれども。1塁側に座りましたけれども、本当に微妙な状態で、一応、ホークスのユニホームを着て、最後は帽子をかぶって。だけれども、息子は楽天ファンだったので、僕は日本シリーズ興味ないよと言い出して、それで僕は第5戦を買ったのです。チケット。そうしたら、運良くて、それが優勝の決定の瞬間を見ることができたのです。だけれども、本人はまだ小学校2年生ですけれども、6時半から見たいNHKの番組があるのだと言って行かないと言うのです。僕は楽天ファンだしと言うのだけれども、クラスの子たちが、いいないいなと言い出したら、やっぱり僕行くよと、行ったわけです。そうしたらあの熱気で、やっぱり興奮するわけですね、僕がすごく感動したのは、7回するとき、六甲おろし歌うわけですね。そのときに、ホークスのみんなメンバーで、ホークスの応援団の人たちはみんな立って六甲おろし歌うのです。だから相手に対してエールを送っているわけですね。やっぱりその光景を息子も見て、僕、楽天ファンやめるよと言い出しましたが、楽天もいいんじゃないと話して、そういうように、ちょっと今それでしたけれども、やっぱり何か応援したい気持ちってあるわけですよ。

僕がなぜホークスに入ったかという、ホークスのサービス精神というのかな、やっぱり孫さん初め、すばらしいのですよね。入ると特典がいっぱい、さっき特典の話しましたけれども、だけれども、僕はリュックを欲しかったのです。息子もリュックサックを欲しかった。それで入ったわけです。だけれども、まだ来年の2月に2015年版が来るので、まだ来ないのですけれども、だけれども、そういったようにホークスも阪神もそうですけれども、とてもいろいろな特典が当たります。

やっぱり先ほどからいろいろと聞いていると、すごく大事なものは、事務局の、もしくはメンバーの意識がファンクラブに近くないと無理です、絶対に。だから事務局と、僕も全国のオーケストラで指揮していますので、事務局の方と話をします。だけれども、そこで、どことは言いませんけれども、ちょっとファンクラブと距離置いているのですよねというのが、結構あります。残念ながら。だから、それはなぜそういうふうに思われるかということも、多分反省しなくてはいけないし、だけれども、そういう気持ちになっている事務局、からを閉ざしている事務局を口説くのもファンの応援したいという気持ちの熱意で、

多分きつと砕けるのではないかなと思うのです。ですので、ぜひ、それを積極的にやることで、きょうは7団体でしたか、7プラス1、やっぱりこれから全国のオーケストラに波及して行ってほしいですし、そして今回、大阪のオーケストラが全然いなというのは、非常に僕としては残念で、これはもう当然日本センチュリーにも声をかけようと思ってますし、先ほど大阪でという話ありましたが、このJ O F Cの総会が大阪のセンチュリーが主催で何かできるようなことが、できないかなと思っています。

そして、先ほどいろいろな話の中でそう感じたのが、今、分母が小さくなっている時代なのですね。分母が小さくなっている時代で何をすればいいか、また、いろいろな多様化していますよね。先ほど、上田市長と実はおとといの夜、かなり夜遅くまで御一緒させていただいて、そのときすごい感動した言葉がございます。

というのは、多様化してとにかく福祉であるとか、教育であるとか、文化であるとか、医療であるとか、いろいろなことに取り組まなければいけないですね、行政の長のトップの方は。だけれども、その中ですごく思ったのは、さっき「好きですさっぽろ」でしか、誇りを持つって、すごく大事だと思うのですよね。やはりそういうことが持てない市民というのは、一流でないと思うのです。

僕の住んでいる福岡はみんな札幌と一緒に、多分9割ぐらいの方が福岡が好きだと言います。福岡市は絶対好きだと言います。もう離れたくない、みんな言います。なぜか、やっぱり来る方々も、福岡市民の方がウエルカムで迎えますし、また、福岡にも札幌と同じようにおいしいものがたくさんあります。やっぱりそれにすごく魅力を感じ、そしてレジャー施設やオーケストラ九州交響楽団がここないのが残念ですけども、僕も九州交響楽団すごく好きで、何度も言いますが、そういうお客さんもあって、またソフトバンクもあって、アビスパ福岡がちょっといけないのですけれども、残念ながら。だけれども、そういったチームもあって、まち自体がすごく活性していますね。ですから、やっぱりそういうふうになっている場所でクラシック音楽に、どうやったら興味を向いてくれるか、それらもみんなのとにかく広報しかないのですね。その広報をチラシとかポスターとかそういうのだけではなくて、できれば事あるごとに目につくようなインターネット、今、インターネットは若い人たちが見るので、先ほど言ったように高齢の方はインターネット見ない方がすごく多いです。

実はおととい、ランチタイムコンサートをやったときに、おととい僕は公演しに行ったのです。寒河江に公演しに行きました。その公演のときに、インターネットなさる方いますかと聞いたら、二人ぐらい、本当に。だからそういう方々だと、確かにインターネットでの広報は難しいです。まず不可能です。ですけども、やっぱりこれからもっともっと若い人たちにも、ただ、そういう方々、チラシを見ていただければ大丈夫だと思うので、だけれども、若い人たちにアピールするには、これからもインターネット時代なので、とにかくそういうところに入り込んでどんどんオーケストラの魅力、例えばここで演奏が聞ける、それから先ほど市長がおっしゃいましたけれども、本当にスーパーマーケットで音楽が流れて、山響、札幌、都響とかそういうふうになると、これは本当に私たちにスーパーは何々交響楽団支援していますみたいなことが、普通のおば様やそういう方々に、お買い物で来られた方々に認知されてくると、何となく興味も出てくるのではないかなと思います。

おととい、ランチタイムコンサートをやりました。これはゲネプロではなくて、練習の一部を本当にコンサートとして聞いてもらいました。だけれども、200名いました。ですから、ふだんのゲネプロとは違う雰囲気で聞けたということは、多分、彼らにとってもすごくいい経験になったのではないかなと思いますので、やり方はいろいろな方法があると思いますので、それはとにかくこれからも私自身も模索していきますし、ぜひ皆様のお知恵を持ち寄って、地域活性に本当に生かしていただきたいなと思いますし、私もそれをやっていこうと思っています。

本当に今回の3日間、まだ2日なのですけれども、上田市長とこうやっていろいろなお話をさせていただいて、本当にこれだけのバイタリティーある方だからこそ、あれだけ札幌の魅力が全国に出ているのだなと、すごく思いました。本当にありがとうございます。上田市長に、本当に心から感謝させていただきます。本当にどうもありがとうございます。

(拍手)

○司会 (山田) ありがとうございます。

この後、3時50分からはフリートークが始まるということで、かなり詰め詰めなスケジュールになっております。この後、次の主催地の御紹介、閉会の言葉、そして写真撮影とございますので、きびきびと用意できればいいなというふうに思っております。

第9回開催地について

○司会 (山田) 第9回の開催地は、今度は高崎になります。

第9回開催地主催者のあいさつ

○司会 (山田) ここでJ O F C副会長の小野善平様、群響ファンズ会長様にお願いしたいと思います。

○小野副会長 私ども、今回4名しか参加できなかったのですけれども、実は、きょうの夕方の定期演奏会があるものですから、私たち4人、代表という形で来させていただきました。きのう、演奏会を聞きまして、とても感動いたしました。そして来年、引き受けさせていただきますが、まだ詳細が決まっておりません。しかし、群響が来年、創立70周年記念ということで、まず1年間全体で70周年をやろうという形になっておりますので、そうした意味を振り返りながら、この企画をしていければなとも思っております。

そして予定としましては、今、11月を考えているということですが、11月21日を選んで。これ、大友直人さん指揮で、ヴァイオリンが諏訪内さん、それでベートーヴェンのヴァイオリンコンチェルトが予定されて、あと でしたが、そうして意欲的などいいますか、豪華なプログラム、そしてこれがぜひ日程を整えればと思っておりますが、また詳細は、後日連絡させていただきます。

今回、本当にすばらしい刺激的なJ O F Cでありましたけれども、これを踏襲した形により有意義な会議にしていければと願っています。たくさんの皆様方の御参加をお待ちしております。(拍手)

○司会 (山田) ありがとうございます。

閉会のことば

○司会（山田） おしまいに閉会のことば。

S P C会長長島榮一様、J O F C副会長にお願いしたいと思います。

○長島副会長 皆様、大変御苦労さまでございました。また、主催地の山響ファンクラブの皆様、準備まことに御苦労さまです。本日の催し、まだ半ばではございますが、まずは御礼を申し上げます。ありがとうございます。

各地のオーケストラの事情やファンクラブの活動内容等は、それぞれでございます。ただ、共通するのは、本日参りまして聴衆としての心の同一性といいますか、類似性といいますか、そういうものを1年ぶりに皆様方とお会いして感じました。そういう心あつてのこの会かなというふうに思っております。

また、きょうの討議の中で、出会いが未来をつくる、また明るい方向性、そういう言葉も活動の中に見えてまいりまして、大変うれしゅうございました。オーケストラと身近にいるということが、個人として幸せで、あるいは幸せに近づけるものなのではないかなというふうに感じた次第です。

また、来年、幸せを高めて、あるいは深めて再会できるよう、皆さんで目指してまいりたいと思います。では、あとコンサートホールで、また、席を同じくしたいと思います。

皆さん、どうもありがとうございました。（拍手）

閉会宣言

○司会（山田） これで、第8回J O F C総会 山形大会2014を終了とさせていただきます。ありがとうございます。

盛んに大阪センチュリー、日本センチュリーの活躍を夢見しております。

皆さん、どうもありがとうございました。（拍手）